

## 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会(第1回) 議事概要

- 1 日 時 平成28年10月28日(金) 14:30~15:50
- 2 場 所 道庁赤れんが庁舎2階2号会議室
- 3 出席者 (構成員) 臼井 栄三氏(北海道教育大学岩見沢校)、  
戎谷 侑男氏((株)シーピーツアーズ)、  
佐々木 亮子氏((有)アールズセミナー)、  
中田 美知子氏(札幌大学)、  
西 吉樹氏((一財)北海道歴史文化財団)、  
山崎 幹根氏((国)北海道大学大学院法学研究科・法学部)  
(道側) 小玉環境生活部長、佐藤文化・スポーツ局長、柴田文化振興課長  
ほか

#### 4 議題

- (1) 座長の選出
- (2) 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会の設置及びスケジュールについて
- (3) 文化を巡る国及び道の動きについて
- (4) 百年記念施設の概要について
- (5) 意見交換

#### 5 概要

平成30年に北海道150年を迎えるにあたり、道民の貴重な財産である北海道百年記念施設の北海道博物館、北海道開拓の村及び百年記念塔をどのように後世に伝えていくのがふさわしいのか有識者の方々から幅広く意見を伺いたい旨説明の後、意見聴取を行った。

#### 【主な意見】

別紙「第1回 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会 意見概要」のとおり

## 第1回 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会 意見概要

### 百年記念施設全体に対して

- ・公園全体をどう見るか。ゾーンとしての視点に立つことが大事。その上で、記念施設地区にある3施設にどのような機能を持たせて残すべきかを議論すべき。
- ・博物館も村も単に歴史的なものを展示していればいいというものではなく、ミクロの視点で人を惹きつけるものを考えるべき。
- ・記念施設へのアクセスの悪さを解消することが必要。
- ・昨年度の特別展のようなイベントを連携して行うことが重要。

### 1 北海道博物館について

- ・人を惹きつけ人々の感覚を吸収することが必要。
- ・外国人の観光客をどれだけ多く呼び込めるかが鍵。
- ・博物館としての機能を大事にするのか稼げる施設にするのか、それによって組み立て方が違ってくる。
- ・必死になって人を呼びこむという意識が感じられない。
- ・この50年で歴史化したものなど新しい視点でのコンテンツの収集・展示という切り口もある。

### 2 北海道開拓の村について

- ・来村者が減っている原因は何かを調べる必要がある。
- ・時代にフィットしていかなければならない。
- ・過去に開拓の村に愛称をつけるという動きがあっても良かったのではないかと思う。
- ・指定管理者制度に問題がある。指定管理を任される限られた期間では種々制約があり、やれることに限界がある。

### 3 北海道百年記念塔について

- ・シンボルタワーだが、人を呼び寄せるための経費をかけている印象はない。ランドマークでしかない。札幌に帰ってきたことを知らせるモニュメント。スカイツリー等を見慣れている中では、塔はそれほどものではない。
- ・設置目的やその魂を、どう残すかが重要。
- ・設置経費の半分を道民からの寄付金で賄っており、そうした人々に礼を尽くすことが必要。
- ・佐藤忠良さんのレリーフがあり、何らかの形で残すことが必要。
- ・様々なことを尽くしてから壊すことになる。
- ・百年記念塔に限っていうと、方向は3つ。壊すか、高い経費をかけて補修するか、メモリアルを何かつくる。

### ● 検討の進め方・手続き

- ・塔の建設費の半分が道民の寄付で賄われていることから、これらの人々に対する対応や関係者への説明を行い、必要で無いと判断されれば壊すことになる。
- ・多くの人の気持ちの総意でできたものは、十分な審議を経て判断する必要がある。

### ■ 意識変革

- ・必死になって人を呼びこむという意識が感じられない。
- ・常に、時代の人々の感覚を吸収する意識を持っていることが必要。
- ・愛称も含め、飛び込んでいこうとか売り込んでいこうとかの姿勢をあまり感じない。

### ▲ 新たな視点

- ・外国人の観光客をどれだけ多く呼び込めるかが鍵になる。
- ・稼げる施設という考え方が必要。
- ・形あるものはやがて使命が終わる時がくる。
- ・この50年で歴史化したものなど新しい視点でのコンテンツの収集・展示という切り口もある。
- ・北海道開拓の村の愛称について検討しても良かったのでは。